

【鳥取県アイスホッケー連盟の関係】

☆現在までの成績等概要

- ・ わかとり国体（昭和 60 年）7 位入賞
- ・ 平成 11 年に米子市の YSP リンクが閉鎖になりました。
- ・ 平成 17 年本国体 1 回戦突破、沖縄県に勝利
- ・ 平成 18 年に鳥取市の日本海リッチランドリンクが閉鎖になり、鳥取アイスホッケークラブは活動を休止しました。
- ・ 昭和 53 年以降 国体 中・四国ブロック予選突破、本大会連続 31 回出場
- ・ 平成 18 年に上記の功績が認められて、米子アイスホッケークラブが国体強化チームの指定を受けました。年間 65 万円の強化費をいただき、倉敷遠征（岡山県国体チームと練習試合）、高松遠征（香川県国体チームと練習試合）、福岡遠征（福岡県国体チームと練習試合）を行っています。

☆競技人口について（概算）

S57	H 元	H12	H23
65	60	50	25

☆現状について

- ・ 鳥取県アイスホッケーチームは、ほとんどが米子アイスホッケークラブのメンバーであり、例年、10月から4月まで出雲市のリンクで月2～3回練習し、オフシーズンとなる5月から7月までは岡山市のリンクで月1～2回練習しています。メンバーの平均年齢は33歳で、他県は主力が20歳代前半であるのと比べると、かなり高い年齢構成となっています。リンクがないことでジュニア選手の育成ができないため、限られた現役選手に頼らざるを得ないという状況です。
最近はやや最終枠の代表戦に勝って本大会出場を確保している厳しい状況です。年齢層が高いため、体力的なマイナス面を技術でカバーしていますが、1年1年が本当にプレッシャーのかかるぎりぎりの闘いで、いつ連続出場が途切れるか、危惧されます。
- ・ 鳥取大学アイスホッケー部は平成8年の創部以来、中四国学生リーグでは準優勝するなど上位チームとして活躍してきました。鳥取のリンクが閉鎖後、出雲市のリンクで月3回程度練習していますが、リンクへの往復に5～6時間かかること、防具代、交通費の負担が大きいことから年々部員が減ってきて、現在は部員9名と半減し存続が厳しい状況です。